



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当

TEL (03) 3270-2701
FAX (03) 3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2024/09/11
SDS整理番号 19246150

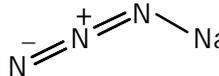
製品等のコード : 1924-6150、1924-5130、1924-6170

製品等の名称 : アジ化ナトリウム

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。) エアバッグ用ガス発生剤、化学品原料、爆薬 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
自己反応性化学品

: タイプG

爆発物 : 区分に該当しない
自然発火性固体 : 区分に該当しない
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性 (経口) : 区分2
急性毒性 (経皮) : 区分1
皮膚腐食性/刺激性 : 区分1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分1 (心血管系、肺、中枢神経系、全身毒性)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分1 (中枢神経系、心血管系)、
区分2 (肺)

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期 (急性) : 区分1
水生環境有害性 長期 (慢性) : 区分1

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

飲み込むと生命に危険 (経口)
皮膚に接触すると生命に危険 (経皮)
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
心血管系、肺、中枢神経系、全身毒性の障害
長期又は反復暴露による中枢神経系、心血管系の障害
長期又は反復暴露による肺の障害のおそれ
水生生物に非常に強い毒性
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

粉じん、ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
 眼、皮膚又は衣類につけないこと。
 取扱い後は、よく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 環境への放出を避けること。

【救急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、取り除くこと。
 皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
 眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 漏出物を回収すること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名	アジ化ナトリウム (別名) ナトリウムアザイド、ナトリウムアジド、アジドナトリウム (英名) Sodium azide (EC名称)、Azidosodium、Sodium azide (Na(N3)) (TSCA名称)
成分及び含有量	アジ化ナトリウム、98.0%以上
化学式及び構造式	NaN ₃ 、構造式は上図参照(1ペ - ジ目)。
分子量	65.01
官報公示整理番号	(1)-482
化審法	公表化学物質(化審法番号を準用)
安衛法	
CAS No.	26628-22-8
EC No.	247-852-1
危険有害成分	アジ化ナトリウム

4. 応急措置

吸入した場合	： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合	： 直ちに医師に連絡する。 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 速やかに、皮膚を多量の水と石鹸で洗い、医師の診察を受ける。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	： 直ちに医師に連絡する。 直ちに、流水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外して洗うこと。洗浄を続ける。 まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。 眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	： 直ちに医師に連絡する。 速やかに、口をすすぎ、うがいをする。 無理に吐かせないこと。 コップ1、2杯の水を飲ませる。 けいれんや意識混濁がある時又は意識がもうろうとしている時には吐かせてはいけない(窒息させたり、吐いた物が気管に入って肺炎になることがあるため)。 意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流

- を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。
気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状:
- 吸入 : 咳、頭痛、息切れ、鼻づまり、眼のかすみ、心拍数低下、
 血圧降下、意識喪失
 - 皮膚に付着 : 発赤、水疱。
 皮膚から吸収される可能性あり。
 - 眼に付着 : 発赤、痛み
 - 経口摂取 : 腹痛、吐き気、発汗。
 他の症状については「吸入」参照

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 乾燥グラファイト、塩化ナトリウム又は無水炭酸ナトリウムを主剤とする消火剤
- 使ってはならない消火剤 : 水または泡、酸、アルカリ、ハロゲン化合物、二酸化炭素、炭酸水素ナトリウム、炭酸水素カリウム、リン酸二水素ナトリウムを用いた消火剤は絶対に使用しないこと(毒ガスの発生があるため)。
- 特有の危険有害性 : 火災中に熱分解し、刺激性又は毒性のガス及びビュームを発生する可能性がある。
- 特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、
 空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
 皮膚、眼など身体とのあらゆる接触を避ける。
 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
- 回収、中和 : 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に廃棄処分する。
 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法 : 機材
- 二次災害の防止策 : 危険でなければ漏れを止める。
 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
 周辺の発火源を速やかに取除く。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 酸類、重金属との接触禁止。
 酸類、多くの金属(鉛、真ちゅう、銅、水銀、銀及びその化合物)と接触すると火災及び爆発の危険性がある。
 摩擦や衝撃を与えない。
 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。
 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。
 指定数量の1/5以上、1未満(少量危険物)の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。
 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取扱いについては届出の必要はない。
- 局所排気・全体換気 : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
- 安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
 眼、皮膚、衣類につけないこと。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 湿気、水、高温体との接触を避ける。

保管	
技術的対策	: 保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
保管条件	: 直射日光や高温多湿を避ける。 乾燥した場所に保管する。 容器を密閉して冷暗所に保管する。 一定の場所を定めて、施錠して保管する。 貯蔵する所には、赤地に白文字で「医薬用外毒物」の表示を行う。
混触危険物質	: 酸、重金属（鉛、真鍮、銅、銀、水銀又はその化合物） 特に鉛やその化合物から離しておく。
容器包装材料	: ガラス、ポリプロピレン、ポリエチレンなど

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度（ばく露限界値、 日本産衛学会 ACGIH）	: 生物学的ばく露指標）： 設定されていない。 TLV-STEL 上限 0.29mg/m ³
設備対策	: 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具（防じんマスク、送気マスク又は空気呼吸器等）を着用する。
手の保護具	: 保護手袋（塩化ビニル製、ニトリル製など）を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 作業衣を家に持ち帰ってはならない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 結晶又は結晶性粉末
色	: 白～ほとんど白色
臭い	: ほとんど無臭
pH	: 弱アルカリ性（水溶液）
融点	: 275（分解開始）
凝固点	: データなし
沸点	: 約 300（爆発的分解）
引火点	: データなし
可燃性	: データなし
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: 1 Pa (20)
相対ガス密度（空気 = 1）	: 2.26
密度又は相対密度	: 1.85 g/cm ³ (20)
比重	: データなし
溶解度	: 水に溶けやすい（41.7g/100mL、17 ）。 酸に溶けるが、反応して毒ガス（アジ化水素）を発生する。 エタノール、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。
オクタノール/水分配係数	: log Pow = 0.16（計算値）
発火点	: データなし
分解温度	: 275-330 に熱せられると分解して窒素ガスを放出し、 酸化ナトリウムを残す。
粘度	: データなし
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし
GHS分類	
自己反応性化学品	: 分子内に爆発性に関わる原子団（アジド基）を有するが、国連分類はクラス6.1（毒物）であり、クラス4.1（可燃性物質）には分類されていないので、タイプGとした。 なお、この物質は自動車衝突時の安全バッグを膨らませる推進剤に実用化されたことがある（ACGIH(2001)）。
爆発物	: 分子内に爆発性に関わる原子団（アジド基）を含むが、国連危険物

- 輸送勧告ではクラス1に分類されていない。副分類でも該当しない。
 以上のことから、区分に該当しないとした。
- 自然発火性固体 : 常温では燃焼しない (Patty(5th.2001)) という情報により、
 区分に該当しないとした。
- 水反応可燃性化学品 : 水溶解度41.7g/100mL(17) (ICSC(J)(1997))により、水に対して
 安定と判断されることから、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)

- : 加熱により融解して300 で分解する。
 徐々に加熱すれば、窒素を発生しながら、純粋な金属ナトリウム
 (禁水)を生じる。
- 危険有害反応可能性 : 融点以上に、特に急速に加熱すると爆発することがあり、火災や爆発
 の危険をもたらす。
 乾燥すると熱、火災、摩擦又は衝撃により爆発するおそれがある。
 第 族(リン等)、第 族(硫黄等)、第 族(ハロゲン)元素及びその
 化合物と反応しやすい。
 多くの金属(銅、鉛、銀、水銀、真ちゅう)と接触すると、反応し、
 特に衝撃に敏感な化合物を生成する(重金属アジド)(火災および
 爆発の危険性あり)。
 二硫化炭素と接触すると、反応し、衝撃に敏感な化合物を生成
 する。
 酸と混触すると、反応して有毒で爆発性のアジ化水素を生成する。
 水溶液は弱塩基である。
 アルミニウムに対して強い腐食性を示す。
- 避けるべき条件 : 高熱、日光、光、裸火、高温、スパーク、湿気、通気性のある材料
- 混触危険物質 : 酸類、重金属(鉛、真鍮、銅、銀、水銀又はその化合物)
- 危険有害な分解生成物 : 水酸化ナトリウム、アジ化水素、金属ナトリウム

11. 有害性情報

- 急性毒性 : 経口 ラット LD50 = 45mg/kg(DFGOT vol.20 (2003))
 飲み込むと生命に危険(経口)(区分2)
 経皮 ウサギ LD50 = 20mg/kg (ACGIH (2001))
 皮膚に接触すると生命に危険(経皮)(区分1)
 吸入(蒸気) 分類できない。
 吸入(粉じん) 分類できない。
- 皮膚腐食性/刺激性 : ウサギの皮膚に適用した試験の結果、適用4時間後に腐食性を示し、
 6匹中3匹が死亡したとの報告(DFGOTvol.20(2003))に基づき、
 区分1とした。
 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷(区分1)
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 皮膚腐食性が区分1であることから、眼も区分1とした。
 重篤な眼の損傷(区分1)
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 分類できない。
- 生殖細胞変異原性 : 分類できない。
 in vivo試験のデータがない。
 また、in vitro変異原性試験では、微生物復帰変異試験で陽性の結果
 (ACGIH(2001))、ヒトリンパ球またはチャイニーズハムスター卵巣
 細胞を用いた染色体異常試験、マウスリンパ腫細胞を用いた遺伝子
 突然変異試験では、いずれも陰性結果(DFGOTvol.20,(2003))で
 あった。強い変異原性は微生物に特有のもののみなされている
 (DFGOTvol.20(2003))。
- 発がん性 : 区分に該当しない。
 A C G I HによりA4に分類されている[ACGIH-TLV(2005)]。
 また、ラットを用いた2年間経口投与による試験で、用量依存的な
 体重増加抑制と高用量群における生存率の低下が見られたが、
 発がん性の証拠は見出されていない(NTPTR389(1991))。
- 生殖毒性 : 分類できない。
 ハムスターの皮下に埋め込まれた浸透ミニポンプから妊娠7~9日目
 にはく露した結果、2/15匹が死亡、早期吸収の有意な増加、脳ヘル
 ニアの発生が認められている(DFGOTvol.20(2003))が、併せて、
 証拠文書として不十分なため出生前の毒性評価には使用できないと
 述べられている(DFGOTvol.20(2003))。かつ、投与方法も特殊で
 あることから、分類できないとした。
- 特定標的臓器毒性
 (単回ばく露) : 経口摂取による中毒事故で心臓の強い鼓動、気絶、心臓虚血を
 呈した5人の実験技術者の例(NTPTR.389(1991))、10~20gを
 摂取後、精神状態の変化、顕著なアシドーシス、心律動異常、

- 心拍数低下、低血圧を招き死亡した化学者の例（NTPTR.389(1991)）、極めて少量摂取した場合でも頻脈、過換気、低血圧を示した実験技術者の例（HSDB(2009)）などの症例報告がある一方、本物質の標的器官は心臓血管系であり、末梢血管の拡張を起し血圧低下を招くと記述されている（DFGOTvol.20(2003)）ことから、区分1（心血管系）とした。また、上述のヒトの事例ではさらに症状として、めまい、気絶、精神状態の変化、非心臓性の肺水腫、代謝性アシドーシスが
見られ、また、本物質を数グラム摂取した自殺例（ACGIH(2001)）の所見として、肺水腫と脳水腫の記載があることから、区分1（肺、中枢神経系、全身毒性）とした。
心血管系、肺、中枢神経系、全身毒性の障害（区分1）
- 特定標的臓器毒性（反復ばく露）：
： ラットの13週間反復経口ばく露試験の最高用量（20mg/kg/day）で臨床症状として嗜眠、努力呼吸、死亡、組織学的病変として大脳と視床に壊死が観察された（NTPTR389(1991)）。さらに、2年間反復経口ばく露試験では最高用量（10mg/kg/day）で生存率の低下が見られ、この低下は試験物質ばく露に起因する脳の壊死と心血管虚脱が原因である述べられている（NTPTR389(1991)）ことから、区分1（中枢神経系、心血管系）とした。
また、上記のラット13週間経口ばく露試験の20mg/kg/dayでは、肺のうっ血、出血と水腫も観察されているので区分2（肺）とした。
なお、イヌの反復経口ばく露試験（1～10mg/kg/day）でも運動失調が見られ、大脳の組織形態学的変化が報告されている（HSDB(2009)）が、ヒトのはく露に関しては重大な有害影響の発生を伝える報告は特に見当たらない。
長期又は反復ばく露による中枢神経系、心血管系の障害（区分1）
長期又は反復ばく露による肺の障害のおそれ（区分2）
- 誤えん有害性：
： 分類できない。

12. 環境影響情報

- 水生環境有害性 短期(急性)： 藻類（Pseudokirchneriellasubcapitata）
96時間ErC50=348 µg/L（AQUIRE,2010）
水生生物に非常に強い毒性（区分1）
- 水生環境有害性 長期(慢性)： 急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いと推定されるもの（log Kow=0.16）、急速分解性がない（直接測定（HPLC）による分解度：1%）ことから、区分1とした。
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性（区分1）
- 残留性・分解性： 難分解性。HPLC分解度=1%
生物蓄積性： 低濃縮性。Log Kow=0.16
土壤中の移動性： データなし
オゾン層への有害性： 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物：
： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄してはいけない。
（参考）分解法
ドラフト内で水に溶解した液に、約1.5当量の亜硝酸ナトリウム水溶液を添加し、冷却下攪拌しながら約20%硫酸水溶液を加え、溶液のpHが酸性になるまで添加しアジ化ナトリウムを完全に分解させる。この操作中に、発熱やガスの発生があるので、時々氷を加えながら注意深く操作する。
- 汚染容器及び包装：
： 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号： 153

- 国際規則
 - 国連番号 : 1687
 - 国連品名 : アジ化ナトリウム
 - 国連分類 : クラス6.1 (毒物)
 - 容器等級 : II
 - 海洋汚染物質 : Yes (該当)
- 国内規制
 - 陸上規制情報 (消防法、毒劇法、道路法の規定に従う)
 - 海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)
 - 国連番号 : 1687
 - 品名 : アジ化ナトリウム
 - クラス : 6.1
 - 副次危険 : -
 - 容器等級 : II
 - 海洋汚染物質 : 該当
 - MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当
 - 少量危険物許容量 : 500g
 - 航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)
 - 国連番号 : 1687
 - 品名 : アジ化ナトリウム
 - クラス : 6.1
 - 副次危険 : -
 - 容器等級 : II
 - 少量輸送許容量 : 1kg
- 特別の安全対策 : 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れののないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。車輛等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (政令番号 第9号「アジ化ナトリウム」、対象重量%は 1) 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (政令番号 第9号「アジ化ナトリウム」、対象重量%は 1) (令別表第9) (注) 令和7年4月1日以降、政令番号：規則別表第2の第24号に変更
 - 爆発性の物「アジ化ナトリウムその他の金属のアジ化物」 (施行令別表第1第1号)
 - 皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質
 - ・皮膚刺激性有害物質「アジ化ナトリウム、対象重量%は 1」
 - ・皮膚吸収性有害物質「アジ化ナトリウム、対象重量%は 1」 (安衛則第594条の2)
- 化審法 : 旧第三種監視化学物質 No.158 (官報公示日：2010/03/19)
- 消防法 : 危険物第5類自己反応性物質、金属のアジ化物 第2種自己反応性物質、指定数量100kg 危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1)
- 毒物及び劇物取締法 : 毒物「アジ化ナトリウム」(指定令第1条)、包装等級
- 化学物質排出管理促進法 (PRTR法) : 非該当 (R5年4月1日から)
- 船舶安全法 (危規則) : 毒物類、毒物
- 航空法 : 毒物類、毒物
- 輸出貿易管理令 : キャッチオール規制 (別表第1の16項) HSコード：2850.00 第28類 無機化学品

- ・輸出統計番号（2024年1月版）：2850.00-000
「水素化物、窒化物、アジ化物、けい化物及びほう化物（化学的に単一であるかないかを問わないものとし、第28.49項の炭化物に該当するものを除く。）」
- ・輸入統計番号（2024年4月1日版）：2850.00-000
「水素化物、窒化物、アジ化物、けい化物及びほう化物（化学的に単一であるかないかを問わないものとし、第28.49項の炭化物に該当するものを除く。）」

16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項：

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献：

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。